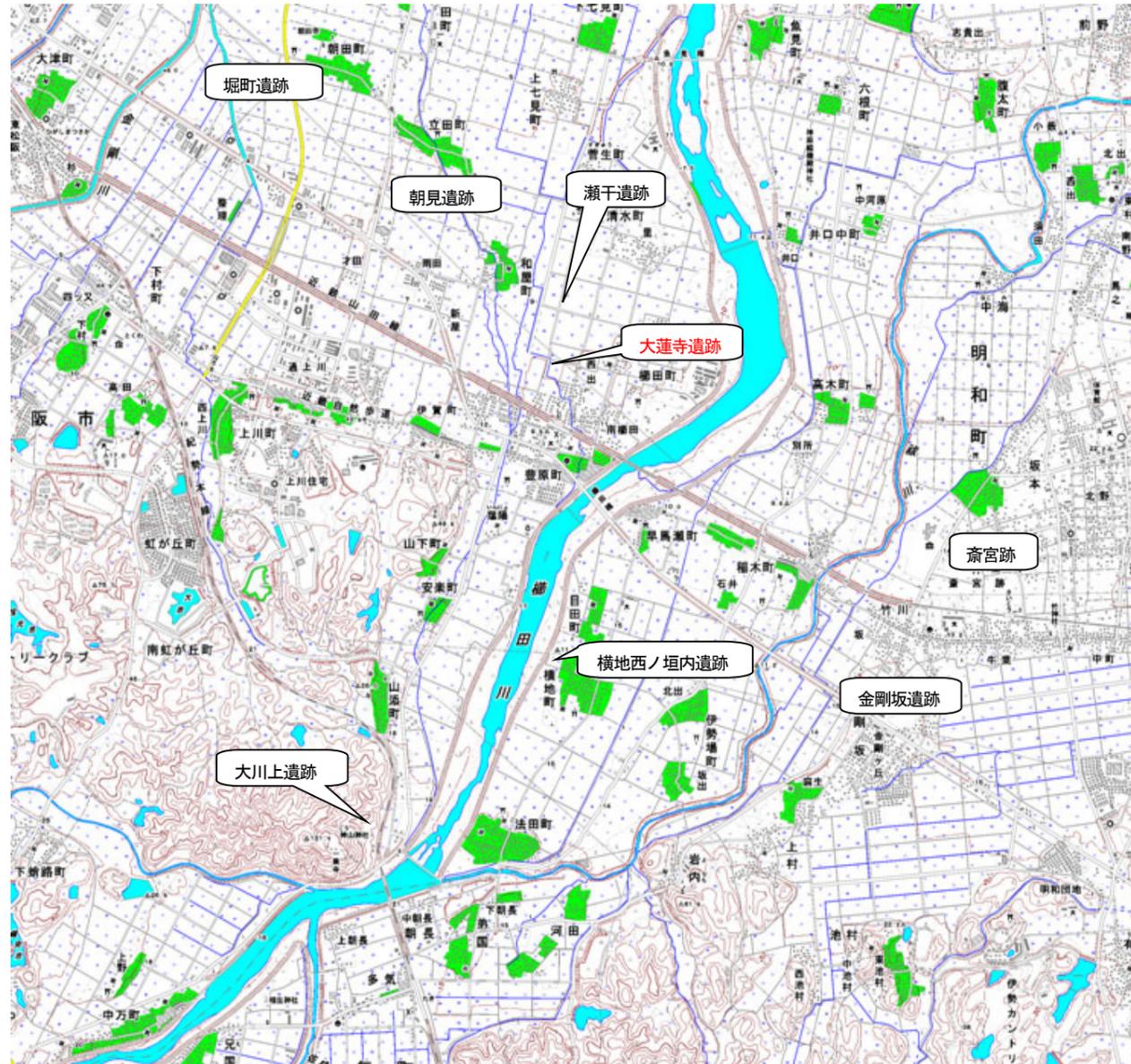


だいれんじいせき  
大蓮寺遺跡（第3次）現地説明会資料

～松阪市櫛田町～

2021年12月19日  
三重県埋蔵文化財センター



国土地理院発行数値地図1：25000「松阪」に加工加筆

【まとめ】

今回の調査では、10世紀後半頃の建物や溝が見つかりました。第2次調査の成果とあわせると掘立柱建物が区画溝で囲まれた集落の実態が明らかになってきました。今後は、こうした調査成果を詳細に検討し、当時の集落の暮らしぶりを明らかにしていきたいと考えています。

今回の発掘調査の現地説明会が、現代と古代のかけはしになり、古代の人々の生活の一端に触れて頂く機会になれば幸いです。

調査遺跡名	大蓮寺遺跡（第3次）
所在地	三重県松阪市櫛田町
調査面積	807㎡
調査期間	令和3年10月13日～令和4年1月31日（予定）
原因事業名	令和3年度一般地方道 松阪環状線地方特定道路整備事業
調査実施機関	三重県埋蔵文化財センター



掘立柱建物

【はじめに】

大蓮寺遺跡は、松阪市櫛田町に所在し、櫛田川左岸の沖積地に位置しています。平成7年度に第1次調査、平成24年度に第2次調査が行われ、今回で3回目の発掘調査になります。第1次調査では溝跡が確認され、土師器杯・甕・須恵器長頸壺が出土しています。第2次調査では掘立柱建物・区画溝等が確認され、緑釉陶器碗・灰釉陶器碗・志摩式製塩土器等々が出土しています。

また、周辺域において朝見遺跡や瀬干遺跡など多くの遺跡の調査が行われています。

本遺跡は、昭和46年に櫛田神社周辺から多量の瓦が出土している大雷寺廃寺との関わりが想定されていた遺跡です。今回の調査では、大雷寺廃寺に関連する遺構は確認できませんでしたが、瓦が出土しており、今後寺域を考える上で参考になります。

【平安時代の遺構について】

今回の調査では、<sup>ほったてぼしらたてもの</sup>掘立柱建物を1棟、<sup>みぞ</sup>溝を1条、<sup>どこう</sup>土坑を1基、確認しました。これらの遺構は、出土した遺物から10世紀後半頃のものと思われます。第2次調査で複数の掘立柱建物を確認しているため、10世紀後半からこの集落が続いたものと考えられます。

掘立柱建物1は調査区北東で東西3間以上(5.4m)×南北2間(4m)の建物です。

区画溝1は、調査区南側で<sup>やしきち</sup>屋敷地の南側と北側を区画する東西の溝です。

柵1・2は、屋敷内を区画する柵です。柵1は4間(6.2m)、柵2は2間(6m)

土坑1は、調査区やや中央から南側にある炭化物や土器を含む穴です。



石鏃



緑釉陶器



灰釉陶器



土錘

【出土品について】

大蓮寺遺跡では、<sup>りよくゆうとうき</sup>緑釉陶器・<sup>かいゆうとうき</sup>灰釉陶器・<sup>はじき</sup>土師器をはじめとした土器・陶器類が出土しました。

なかでも10世紀後半頃から13世紀初頭の土器が出土しており、この集落の成立から廃絶時期を知るうえで重要な資料となりました。

緑釉陶器 …… 緑色の発色をする<sup>ゆうやく</sup>釉薬がかけられて焼かれた当時の高級な陶器。<sup>わん</sup>碗・<sup>さら</sup>皿・<sup>つぼ</sup>壺がある。

灰釉陶器 …… 植物などの灰を溶かして、釉薬としてかけられた陶器。<sup>わん</sup>碗・<sup>皿</sup>皿・<sup>壺</sup>壺がある。

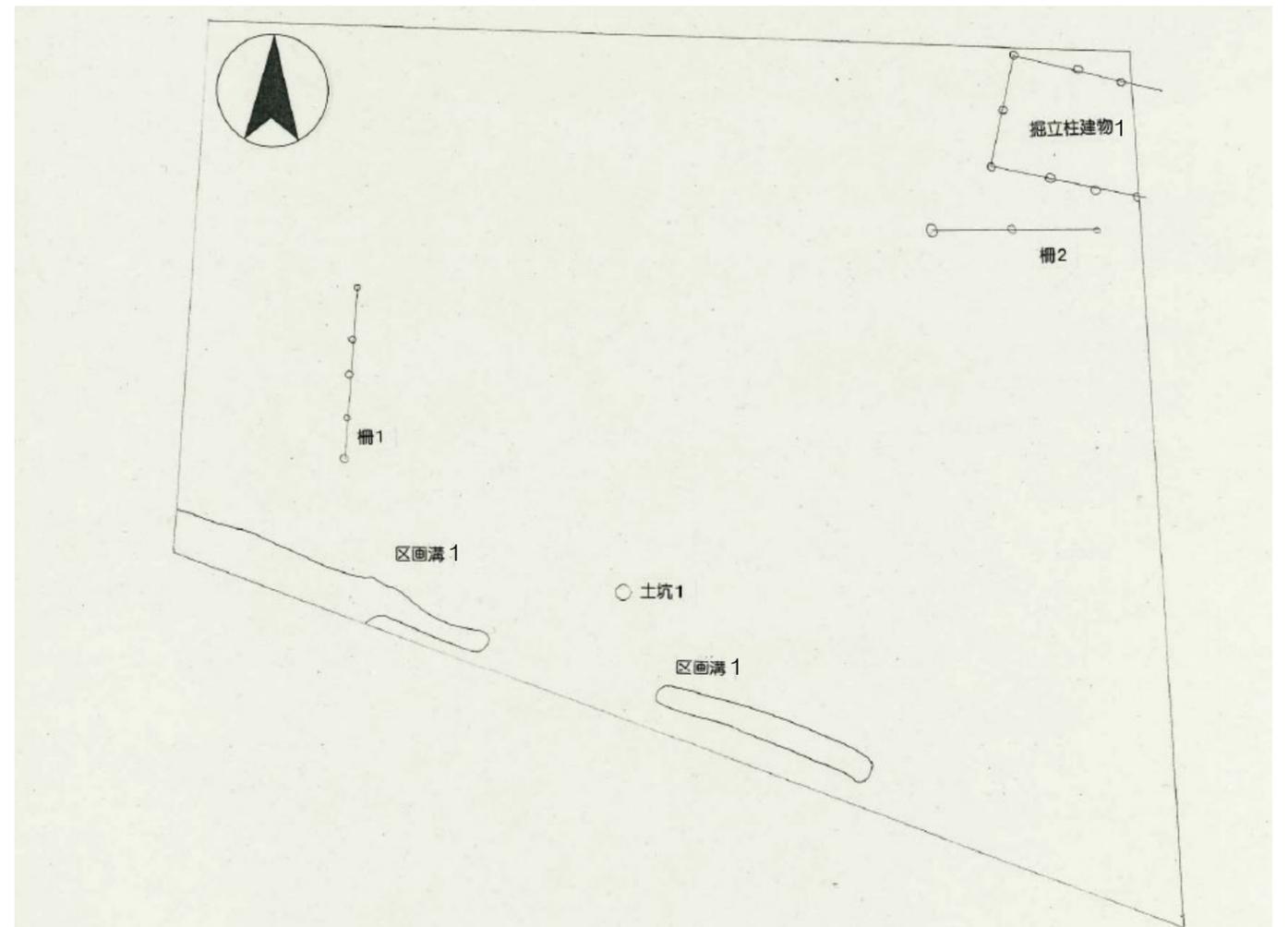
土師器 …… 素焼きの土器。<sup>わん</sup>碗・<sup>つき</sup>杯・<sup>かめ</sup>甕・<sup>たかつき</sup>高杯がある。

<sup>のきまるがわら</sup>軒丸瓦、<sup>のきひらがわら</sup>軒平瓦 …… 軒の最先端に用いられた瓦。

<sup>しましきせいんどき</sup>志摩式製塩土器 …… 塩を作ったとされる土器。

<sup>せきぞく</sup>石鏃 …… 石の矢じり

<sup>どすい</sup>土錘 …… 漁網のおもり



調査区略図 (1:200)



土坑1